

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670900501		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム醍醐寺 1F		
所在地	京都市伏見区醍醐伽藍町21-1		
自己評価作成日	平成30年8月20日	評価結果市町村受理日	平成30年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JirvosyoCd=2670900501-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日ご入居者一人一人のできること、役割を最大限に活かしていただき、生活しています。ご入居者のなかで一日の役割日課、例えば朝の掃除からはじまり、洗濯干し、洗濯物たたみ、昼の食事づくり等すすんで行ってくださり、各ご入居者、職員共に、互いに助け合ってお過ごし頂いています。お誕生日には、ご利用者やご家族さまのご意見、ご希望をお聞きし、ご入居者の食べたいもの、行きたいところ、スポーツ等特技を活かせる場所など、事前に伺い、それぞれのニーズに合った対応、個別外出に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、利用者の残存能力を活かしその人らしく生き活きと過ごせるように支援を行っています。食事の下ごしらえや味付け、献立の助言や清掃などの家事や趣味の生け花をリビングに飾るなど、利用者の出来る事を引出し携わってもらっています。また、外出の機会を多く作り少人数での散歩や希望にそった個別外出をはじめ、季節ごとに花見や紅葉狩り、初詣などに出かけています。また、今年は祇園祭を見に行きたいという利用者の声を基に計画し実施することが出来ました。職員間は良好な関係を築き、ユニット会議や朝夕の申し送りなどで活発に意見や提案を出し利用者本位の支援となるよう取り組んでいます。職員は笑顔で利用者や家族、地域の方々と馴染みの関係を築き地域に根差した事業所作りに努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎日の出勤時に見える位置に掲示し、共有に努めている。	法人の経営理念を事業所の理念としてフロア入口や事務所等に掲示して意識付けを行っています。入職時には法人や事業所での研修で理念に込められた思いを説明しています。また、日々のケアを通してカンファレンスで確認したり、折に触れて理念についての話しや振り返りを行いながら支援に取り組むことで理念の実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、町内会長様が毎回出席してくれており、地域との情報交換に努めている。地域の行事(地蔵盆や小学校の夏祭り)へ参加している	運営推進会議等で地域の情報を得ています。顔馴染みの商店への買い物や散歩の際の近隣の方との挨拶を楽しんだり、夏祭りや地蔵盆等の地域行事に利用者を出掛けています。地域の方の野菜のお裾分けや学生ボランティアの訪問による歌の披露もある等、地域との交流を大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会と連携し、認知症に関する講座の開催を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご利用者のご家族や地域包括支援センター、町内会長様に参加して頂いている。そこでの様々な意見に対して、可能な限り実践している。	運営推進会議は家族や町内会長、地域包括支援センター職員等の参加の下2か月に1回開催し、事業所の現状や利用者の状況、行事や取り組み、事故等の報告を行い、経過や対策についても話し合い意見交換を行っています。また、地域の行事等の情報を得て参加を検討しています。全家族へ会議の議事録を送付し、事業所で閲覧も出来るようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームで年4回作成している広報誌(行事の様子を掲載)を役所の介護保険課まで届けている。	運営推進会議の議事録の提出や事業所の広報誌を届けに行政の窓口を訪問しています。運営上の不明点等の確認は法人を通じて行っています。行政から研修の案内が届き、出来るだけ参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の玄関の施錠は行っていない。また、身体拘束を実施せずに、職員の見守りを強化し対応している。	法人主催の身体拘束に関する研修を代表職員が受講し、事業所で伝達研修を行い知識を身に付けています。言葉かけによる行動の制止が見られた場合や不適切な対応があればその都度注意し、カンファレンスで意見を出し合い話し合っています。利用者の状況によりセンサーを使用していますが、毎月話し合い検討しています。外出希望の利用者には職員が付き添って散歩に出掛けて気分転換を図り閉塞感のない支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のケアカンファレンスや、利用者との関りのなかで意識づけに努めている。また、年1回法人で虐待の防止について研修が行われており参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回権利擁護に関する研修を実施している。成年後見制度に関する、パンフレットを施設の入り口に置き、閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、家族様に書面を通して説明を行うと共に、疑問な点がないかの確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の運営推進会議や、年に一度の家族アンケートの意見をもとに家族様から運営に対しての意見をお聞きし、改善に努めている。	運営推進会議や面会時等に意見や要望を聞いています。どのような食事を食べているのかとの質問があり実際に献立表をみてもらう等、出来る事は速やかに対応するように心がけています。また、法人が満足度アンケート調査を年に1度行っており、結果は家族に報告しています。また利用者の意見や要望は日々支援する中で聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を行い運営に対しての意見交換を実施している。また、日頃から職員一人一人から意見を収集している。	毎月実施する会議や日々の業務の中でも随時職員に声をかけて意見や提案を聞いています。個別のケアに関する意見も多く、職員間で話し合いを行っています。また、業務内容や時間を見直すことで利用者により関わる時間を作るように改善するなど、出来る事にはすぐに着手しています。また、年2回の個人面談でも意見を聞きながら仕事をしやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対して、年に1回やりがいアンケートを実施しており、意見の集約に努めている。また、キャリアパス制度を実施しており、各職員が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回程度、法人内研修を実施し、参加した職員が伝達研修を実施している。それぞれの職員が、目に見える形で力量を把握するため、力量評価表を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加の機会を設けており、ネットワークづくりができるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に、本人様や家族様との面接を実施している。その場で困っていることや不安なことをお聞きし、安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に、本人様や家族様との面接を実施している。その場で困っていることや不安なことをお聞きし、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に、グループホームで生活することが適切かどうかの見極めを行っている。不適切であると判断した場合には、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯、掃除等の家事全般をご利用者と共に行い、暮らしを共にする関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と本人様が交流できるような行事を企画しており、家族様と共に本人様を支えていく関係作りを努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会に来やすい環境づくりに努めまた、行事やお誕生日などには、家族様や馴染みの方にも参加して頂けるようお声かけしている。	友人や知人等の来訪があり、居室に案内しお茶や椅子を用意しゆっくり過ごしてもらえるように配慮しています。職員と馴染みの喫茶店に行ったり、家族と法事や墓参り等に出掛ける際には日程調整や服装、薬等の事前の準備を支援しています。また、個別外出の際に家族や友人と一緒に出席することもあります。年賀状の準備や投函、電話の取次ぎ等、馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の利用者様が孤立することがないように、普段の座席に配慮している。また、レクリエーションへの参加を促し、他のご利用者と関わる機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談員を交えながら、本人様や家族様のフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式によるアセスメントや振り返りシートを活用し、本人の思いや意向についての把握に努めている。	入居時に自宅へ訪問し、面談で利用者や家族から生活歴や身体状況、趣味、本人と家族の思いや希望等を聞きアセスメントシートに纏め、カンファレンスで話し合い職員間で情報を共有しています。思いの把握が困難な場合は入居後、利用者の言葉や表情、行動等をシートにまとめて思いを汲み取り、家族に相談したり、職員間で検討して思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供開始前の面接で本人様や家族様から情報を得よう心がけている。また、普段の生活の中や、家族様の面会時に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らしの現状に関しては、申し送り時や介護日誌での記録を通して、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際には、本人様、家族様、医師、看護師より意見を聞き、介護計画に反映させている。カンファレンスの際に、職員同士で課題について話し合い、ケアに繋げている。	アセスメントを基に作成した介護計画は初回は3か月で見直し、2回目は6か月で見直しその後は利用者の状態に変化がなければ3か月毎の評価と6か月毎にモニタリングを行い、1年毎に見直しています。計画の見直しの際には再アセスメントを行いサービス担当者会議を開き、事前に聞いた利用者や家族、医師等の意見を反映し介護計画を作成しています。介護記録に計画の実施状況を記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別記録に記入し、職員の情報共有に努めている。また、介護計画に関わることについては、必ず個別記録に記入し、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様のニーズに応じる為、家族様の対応が難しい買い物等は、家族様に代わって実施している。訪問美容や、訪問マッサージ、訪問歯科も希望に応じて提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内や社会福祉協議会との連携を強化し、行事等に積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診を実施しており、適切な医療が受けられるように努めている。専門的な治療が必要な場合には、本人様、家族様と相談し受診している。	入居時に今までのかかりつけ医か協力医を選択してもらい、現在は全員が24時間対応してもらえる協力医に変更し月2回の往診を受けています。他の医療機関への受診は基本的に職員が対応し、結果は家族に報告しています。週1回訪問看護師の健康チェックを受け、緊急時はまず訪問看護師へ連絡し指示をもらい対応しています。利用者の状態や希望により歯科の往診や訪問マッサージを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護を利用して頂いており、看護師が訪問に来た際に情報の共有を行っている。24時間体制で看護師と相談できるような体制を整えており、適切な受診や看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際には、本人様の状況の把握を行なうため、適宜、病院の相談員に連絡し、早期退院に努めている。また、必要に応じて病院に行き、本人様の状況把握、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り方針を説明している。終末期と診断された本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医・訪問看護師・家族と共に再度意向を確認後、グループホームでできることを説明し支援を行っている。	入居時に指針を基に看取り支援について事業所として出来る事出来ないことについて説明し同意を得ています。利用者の状態により医師より家族に病状説明があり、医師と家族、事業所の三者が話し合い方針を決めています。家族も面会を増やす等の協力の下、看取り支援の経験もあります。また、看取りについての経験を活かして会議で振り返る機会も持っています。法人での研修を代表職員が受け、事業所で伝達研修で学ぶ機会もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が入職する際に、普通救命講習を行っている。その後も、定期的に普通救命講習を実施し、実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回消防訓練を実施し、年に1回、消防署との合同訓練を実施している。地域の協力が得られるように、地域交流に努めている。	2カ月毎に災害対策について学ぶ機会があり内1回は消防署立会いの下昼夜を想定し、通報から初期消火、避難誘導等利用者も参加し訓練を行っています。その他、紙上で設備や消火器の場所を確認し避難訓練のシミュレーションを行っています。また、法人が作成した台風の対策の手順書を職員に周知しています。訓練を行う際には近隣の方にも知らせ参加を呼びかけています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに関して個別に適切な言葉遣いをするように促している。また、普段から職員間で注意やアドバイスをを行い、意識向上に努めている。	法人主催の接遇マナーの研修を職員代表が受講して事業所で伝達研修で学び報告書を提出しています。基本は敬語で苗字での言葉かけを行い、希望や状況に応じて分かりやすい言葉遣いを行っていますが、不適切な対応があれば職員間で注意しています。入浴や排泄介助時には声の大きさに注意し、同性介助も実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事作りやレクリエーションを実施する際には、本人様に希望をお聞きするようしている。また、普段から自己決定ができるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーション、おやつ等の時間には、お部屋におられるご利用者に声掛けを実施しているが、本人様の希望に応じて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は入居される前から着ておられる服を持参して頂き、その人らしい身だしなみをいただいている。外出の際には、希望される方には、化粧をして頂いたり、外出用の服を着ていただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかをお聞きしてから作るようにし、できる限り希望にお応えしている。食事作りが困難なご利用者様には、味見などで参加して頂いている。	献立は職員が冷蔵庫の中を見て利用者の希望も聞きながら毎日決め、食材は利用者と買いに行くこともあります。利用者は材料を切ったり味付けや後片付け等出来ることに携わってもらい、職員も一緒に同じ物を食べています。おせち等の季節に応じた食事の提供やおはぎを手作りしたり、外出行事の際に外食する等、食事が楽しみなものとなるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量を毎日チェックし、食事量や栄養が不足している場合には、医師と相談し栄養補助食品で栄養不足を補っている。一人ひとりの状態、力を把握し、食事形態を考えて提供している。		

洛和グループホーム醍醐寺 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行っており、歯を磨くのが不十分な方には、支援を行っている。1週間に一度の訪問歯科を利用し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの力を把握し、排泄の失敗がある方に対しては、支援を行い失敗を防いでいる。	トイレでの排泄を基本とし利用者個々に排泄記録を取り排泄パターンを把握し、それぞれに応じた声掛けやトイレへの案内をしています。排泄支援を継続して日中は紙パンツで過ごせるようになる等、排泄の状況や肌の状態が改善した方もいます。利用者に応じて使用する排泄用品や支援方法等については職員間で検討し、排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がある方や数日便が出ていないご利用者に対しては、牛乳やヨーグルトを提供したり、なるべく自然なかたちでの排便があるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	前回の入浴から日が空いている方から声掛けを行っている。入浴を希望されない場合には無理に入っていたくことはせず、時間や日にちを変えて対応している。	入浴は週2回を目処に昼から夕方前までの時間帯に支援し、希望があれば体制も見ながら回数を増やすことも可能です。入浴拒否が見られる場合は声かけする職員を代えたり日時を変える等の工夫をすることで無理なく入浴してもらっています。ゆず湯をしたり、好みのシャンプーの持ち込みも可能で、一人ずつゆっくりと入浴を楽しんでもらえるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて、日中の臥床を促している。夜に不安のある方に対しては、安心して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際には、薬表を掲示し職員全員が確認をするようにしている。服薬後には、普段の様子との違いについて確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりがどの程度の家事ができるかを理解し、その方に合わせた役割を持っていたけるように支援している。お好きなことも理解し、その方が気分転換を図っていただけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の馴染みの場所や家族様からの情報をもとに、職員と共にまた家族様と同行して頂きご本人様の希望の場所に出かけられるよう支援している。	気候の良い時期には日々事業所周辺や近隣の寺院へ散歩に出掛け、季節に応じて初詣や桜の花見、紅葉狩り等の外出も支援しています。職員と個別外出で買い物に出掛けたり、利用者の希望もあり今年は祇園祭りを観に行っています。また、駐車場でバーベキューや外気浴を楽しむ等、出来るだけ外出や外気に触れる機会を多く作るように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設でお金を管理しているが、ご本人様の買い物時などは、必要に応じて持っていたくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が、家族様に頼みごとがある時は、直接電話して頂いたり、お孫様などに手紙を出される時は、葉書選びや郵便局まで職員と共に出かけ、ご本人の思いを大事に出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の光や室温に配慮し、不快な刺激がないように配慮している。、季節感のある掲示物をご利用様と一緒に作り掲示したりしている。また、窓からは、花が見れるよう庭に花壇をつくり季節感を味わって頂けるよう工夫している。	リビングに生花や季節毎に利用者と職員で作った貼り絵等の作品を飾り温かい雰囲気を作っています。廊下にソファを置き一人になれる空間を設け、テーブルや椅子は利用者同士の相性を考慮して配置しています。利用者の体感を考慮しながら室温を調整し、毎日掃除や換気を行い快適に過ごせる共有空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前や廊下、リビング横にソファを置き、気分に応じて過ごしていただけるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた馴染みの家具を持ってきて頂き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうように伝え、テレビや机、筆筒、家族の写真やアルバム、表札等を持参し利用者と家族が相談しながら配置しています。中には趣味の活け生花を飾っている方もいます。体調の変化に合わせて家族と相談して配置等を変えることもあります。希望により布団で休むことも可能で、毎日換気や利用者も出来る事に携わりながら清掃を行い快適に過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を通して、できることわかることの把握に努めている。ご自分で出来る事はできる限りして頂き、自立支援に努めている。		